

Concept

琵琶湖のほとりの小さな町、長浜。
ここに暮らす我々は
長い年月を経て培われた文化を誇り
味わい深い美しい町並みを大切にしています。

歴史ある建物が軒を連ねる旧街道を歩き
穏やかな水辺の暮らしがいきづく路地裏を通り
絵になるまちを一歩抜け出すと
四季のうつろう豊かなフィールドが目の前にひろがります。

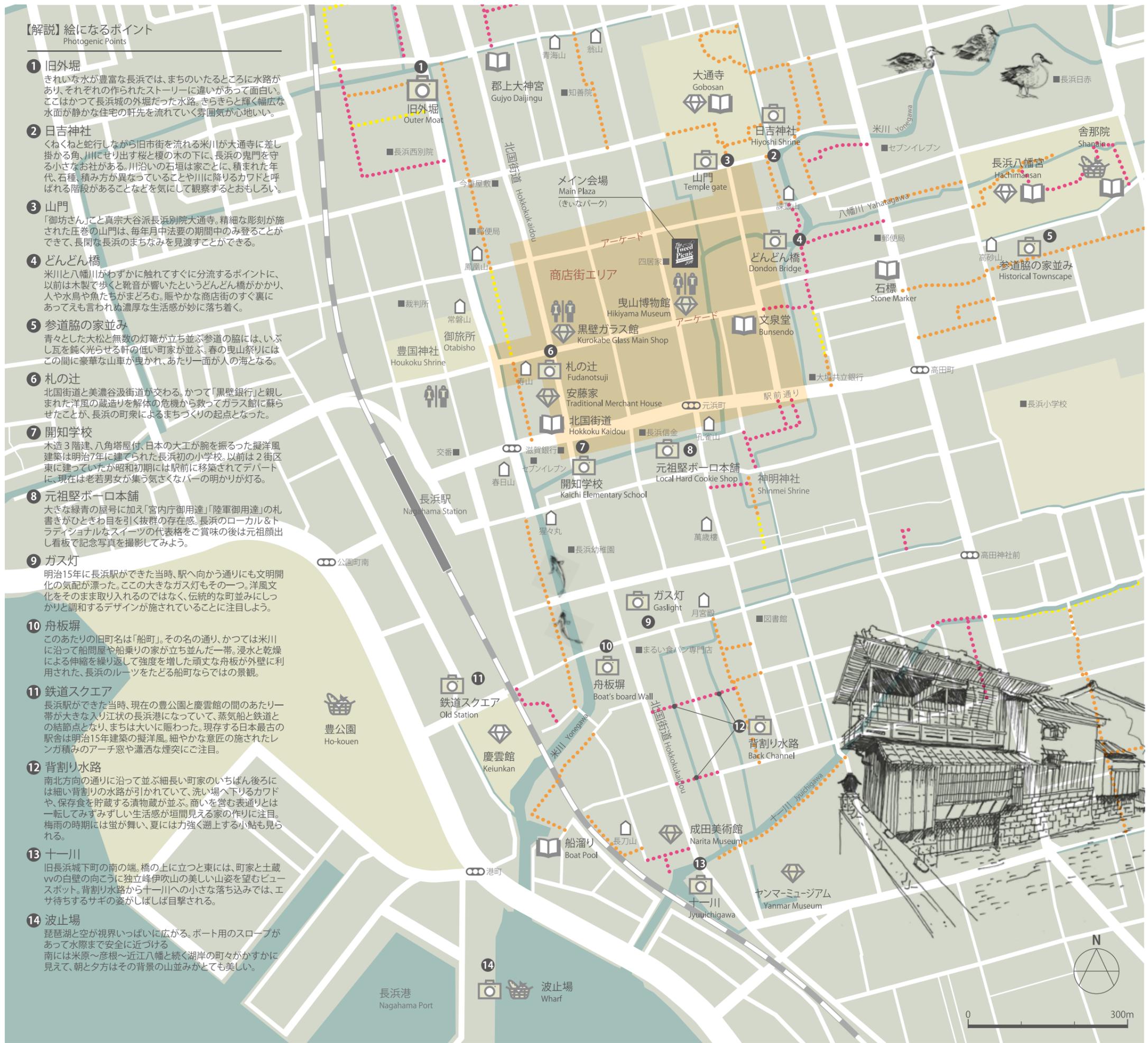
“商いの町のにぎわい”と
“のびやかな自然のゆたかさ”の
どちらも楽しめる小さな旅を、ピクニックと呼びましょう。

さあ愛用の自転車と一緒にお出かけください。

A 旧市街マップ

【解説】絵になるポイント
Photogenic Points

- 1 旧外堀**
きれいな水が豊富な長浜では、まちのいたるところに水路があり、それぞれの作られたストーリーに違いがあって面白い。ここはかつて長浜城の外堀だった水路。さらさらと輝く幅広い水面が静かな住宅の軒先を流れていく雰囲気が心地いい。
- 2 日吉神社**
くねくねと蛇行しながら旧市街を流れる米川が大通寺に差し掛かる角、川でせり出す桜と榎の木の下に、長浜の鬼門を守る小さなお社がある。川沿いの石垣は家ごとに、積まれた年代、石種、積み方が異なっていることや川に降りるカワドと呼ばれる階段があることなどを気にして観察するとおもしろい。
- 3 山門**
「御坊さん」と真宗大谷派長浜別院大通寺。精細な彫刻が施された庄巻の山門は、毎年月中法要の期間中のみ登ることができて、長閑な長浜のまちなみを見渡すことができる。
- 4 どんどん橋**
米川と八幡川がわずかに触れてすぐに分流するポイントに、以前は木製で歩くと靴音が響いたというどんどん橋がかかり、人や水鳥や魚たちがまどろむ。賑やかな商店街のすぐ裏にあっても言われぬ濃厚な生活感が妙に落ち着く。
- 5 参道脇の家並み**
青々とした大松と無数の灯籠が立ち並ぶ参道の脇には、いぶし瓦を鈍く光らせる軒の低い町家が並ぶ。春の曳山祭りにはこの間に豪華な山車が曳かれ、あたり一面が人の海となる。
- 6 札の辻**
北国街道と美濃谷汲街道が交わる。かつて「黒壁銀行」と親しまれた洋風の蔵造りを解体の危機から救ってガラス館に蘇らせたことが、長浜の町衆によるまちづくりの起点となった。
- 7 開知学校**
木造3階建、八角塔屋付、日本の大工が腕を振った擬洋風建築は明治7年に建てられた長浜初の小学校。以前は2街区東に建てていたが昭和初期には駅前に移築されてデパートに、現在は老若男女が集う気さくなバーの明かりが灯る。
- 8 元祖堅ボーロ本舗**
大きな緑青の屋号に加え「宮内庁御用達」「陸軍御用達」の札書きがひとさわ目を引く抜群の存在感。長浜のローカル&トラディショナルなスイーツの代表格をご賞味の際は元祖顔出し看板で記念写真を撮影してみよう。
- 9 ガス灯**
明治15年に長浜駅ができた当時、駅へ向かう通りにも文明開化の気配が漂った。この大きなガス灯もその一つ。洋風文化をそのまま取り入れるのではなく、伝統的な町並みにしっかりと調和するデザインが施されていることに注目しよう。
- 10 舟板堀**
このあたりの旧町名は「船町」。その名の通り、かつては米川に沿って船問屋や船乗りの家が立ち並んだ一帯。浸水と乾燥による伸縮を繰り返して強度を増した頑丈な舟板が外壁に利用された、長浜のルーツをたどる船町ならではの景観。
- 11 鉄道スクエア**
長浜駅ができた当時、現在の豊公園と慶雲館の間のあたり一帯が大きな入り江状の長浜港になっていた。蒸気船と鉄道との結節点となり、まちは大いに賑わった。現存する日本最古の駅舎は明治15年建築の擬洋風。細やかな意匠の施されたレンガ積みアーチ窓や瀟洒な煙突にご注目。
- 12 背割り水路**
南北方向の通りに沿って並ぶ細長い町家のいちばん後ろには細い背割りの水路が引かれていて、洗い場へ下りるカワドや、保存食を貯蔵する漬物蔵が並ぶ。商いを営む表通りとは一転してみずみずしい生活感が垣間見える家の作りが注目。梅雨の時期には虫が舞い、夏には力強く翹上する小鮎も見られる。
- 13 十一川**
旧長浜城下町の南の端。橋の上に立つと東には、町家と土蔵wの白壁の向こうに独立峰伊吹山の美しい山姿を望むビュースポット。背割り水路から十一川への小さな落ち込みでは、エサ待ちするサギの姿がしばしば目撃される。
- 14 波止場**
琵琶湖と空が視界いっぱいに広がる。ポート用のスロープがあって水際まで安全に近づける。南には米原～彦根～近江八幡と続く湖岸の町々がかすかに見えて、朝と夕方はその背景の山並みがとても美しい。



ぜひ訪ねてほしいローカルおすすめのポイント

	
絵になるポイント Photogenic Point	ピクニックポイント Picnic Point
	
歴史を味わうポイント Historic Point	観光名所 Tourist spot
	トイレ Restroom

.....

	水辺 Water front
	めくるめく魅惑の路地 Curious alley

高 ← エキゾチック度数 → 低



【セクション解説】
Section explanation

Section 1 旧市街

大通寺の山門を背に御堂前～大手門のアーケードへ。札の辻では旧市街のランドマーク「黒壁」を横切り、北国街道を南下。米川の流れるように船町～旧港の船溜りを経由して長浜港に至る。

Section 2 琵琶湖畔

ヨットハーバーから湖岸へ。長浜城直下の豊公園の砂浜を通過して湖岸道路へ出れば南浜までは平坦な快走路。入り組んだ市街地を抜けて一気に空が広がる。左手には湖面のさざなみ、右手には湖北平野の田畑とおにぎりのような三角形をした山本山。南浜では母なる琵琶湖の広さを実感。

Section 3 姉川辺

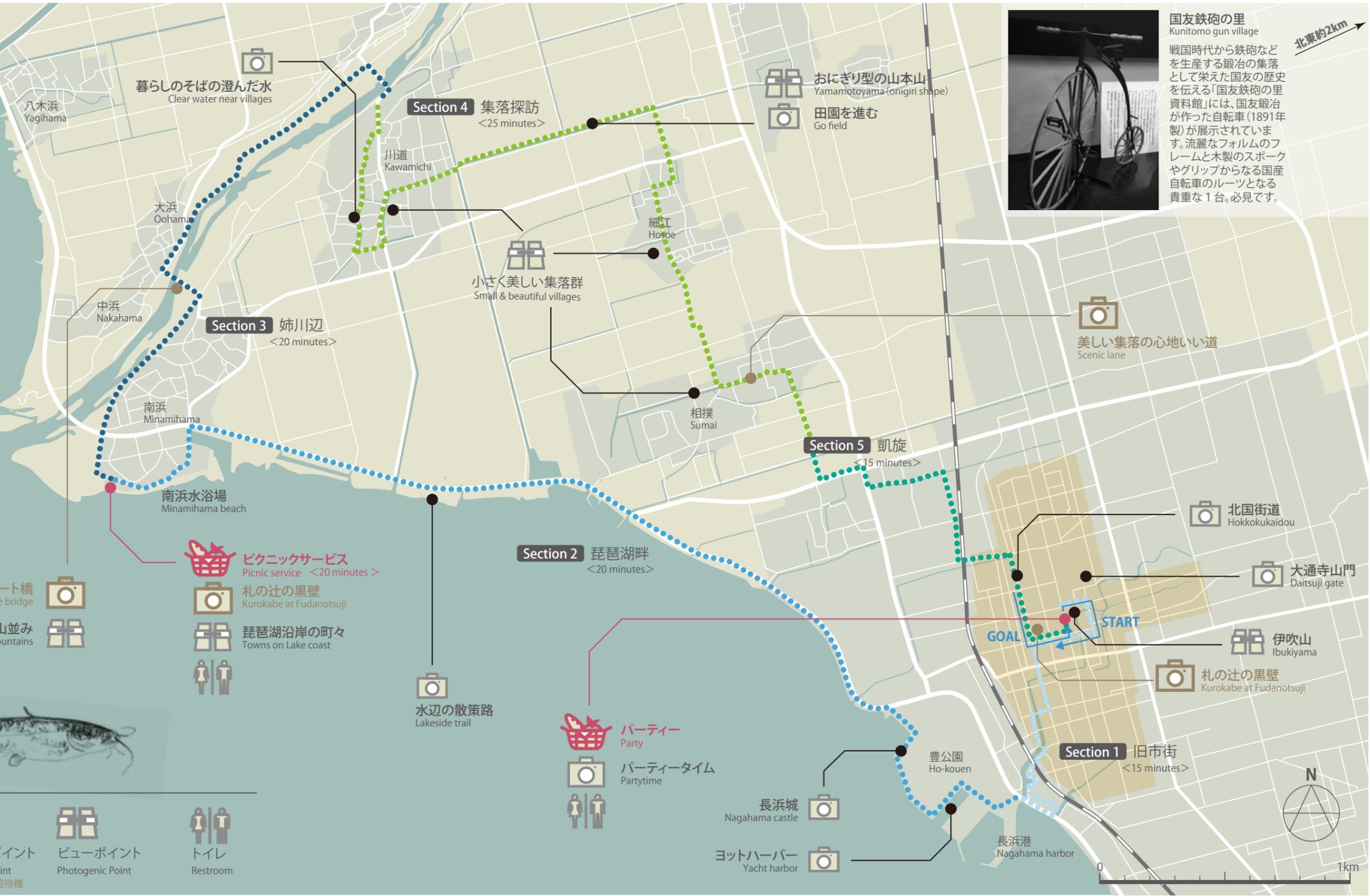
湖北山岳信仰の中枢「己高山」、戦国武将浅井長政の居城「小谷山」、天下分け目の関ヶ原にそびえる「伊吹山」ほか、前方には歴史ロマン溢れる山々が屏風のように連なる。姉川に架かる古い橋の上に乗って澄んだ水を泳ぐ湖魚や水鳥の姿を楽しむ。

Section 4 集落探訪

寺の大屋根と鎮守の杜の周囲に民家が集合する、小さく、美しい湖北集落を巡る。穏やかな村の暮らしを垣間見ながら、草花が潤う石積み水路に沿って曲がりくねった小道を抜けると、村はずれでは条里のまっすぐな道に出る。その前方にはまた次の集落が佇み、辿り着いてはまた次の村へ。気がつけば集落探訪の魅力にどっぷりとはまること必至。

Section 5 凱旋

旧村の面影を辿るうち、気がつけば旧市街は目前。通りの両側に町家がひしめく北国街道を行けば再び黒壁の大屋根が目に入る。穏やかな郊外の散策を終えて「町に帰ってくる」雰囲気はひとしお。沿道の視線を一身に浴びながら、美味しい昼食にありつく。



The Tweed Picnic
NAGAHAMA
2016

- 
ピクニックポイント
Picnic Point
赤表記に特設会場
- 
絵になるポイント
Photogenic Point
茶表記に撮影班待機
- 
ビューポイント
Photogenic Point
- 
トイレ
Restroom



9:00	受付開始	四居家	<ul style="list-style-type: none"> ■ パーティー参加受付 ■ ノベルティ配布
10:00	ブリーフィング	きいなパーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内容・コース説明 ■ 記念撮影
10:30	ランスタート	//	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旧市街出発 ■ 湖岸を快走
11:10	ピクニック休憩	南浜	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農家の美味しいおもてなし ■ 美しい集落探訪
12:30	ランチ・フリータイム	旧市街	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旧市街滞着後昼食 ■ 絵になる町歩き
14:30	パーティー	きいなパーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ ドリンク&フード ■ ケルティックバンド

<参加規約に加え、特に次の事柄にご留意ください。>

郊外ライドではできるだけ一般車両の少ないルートを設定していますが、交通ルールを遵守し、安全運転を心がけてください。/ 集落内は一部幅員の狭い路地を通ります。速度を落としてゆっくりと走行してください。美しい町並みや水路など、ゆっくり走るほどに楽しみが見つかります。/ 旧市街内は混雑が予想されます。無理な乗車は避けください。/ 歩いても十分周れる小さな町です。開催本部の駐輪場は随時管理しておりますのでご利用ください。/ 昼食や休憩等で店舗をご利用される際、他のお客様やお店の方のご迷惑とならぬよう、駐輪マナーにご配慮ください。/ 飲酒後のご乗車は固くお断りします。



